様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　２ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ００５８５

研究課題名（和文）古典アラビア語文法学の現代言語学への貢献

研究課題名（英文）Cotribution of Classical Arabic Grammar to Modern Linguistics

研究代表者
榮谷　温子（Sakaedani, Haruko）

慶應義塾大学・言語文化研究所（三田）・講師（非常勤）

研究者番号：３０３７６８２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトにおいては、特に正則アラビア語の限定・非限定について、アラビ語文法学の立場から分析を行なった。限定名詞句には、限定辞al-で限定されたもののほか、人称代名詞や関係代名詞などが含まれ、本研究でもそれらの範疇を含めて考察した。具体的には、例えば「仮主語」のように捉えられ、指示対象のないとみなされがちなPronouns of Matterについて、指示対象を持つことを論証した。また、文法学史において、種を示す固有名詞がしばしば非限定と扱われていた件に関して、総称指示と不特定指示が混同されていることを指摘し、その原因として、限定と関連の深い「特定」「一般」の概念との関連を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　限定・非限定という、日本語母語話者にとっての習得困難項目に関して、主に名詞句の指示の問題からその用法を明らかにすることができた。
　また、文法学研究をとおして、文法教育の重要性を再認識し、アラビア語の文法教育についてまとめ、口頭発表をおこなった。日々のアラビア語教育に活かしていく所存である。また、本プロジェクトの成果も踏まえて、文法入門書を鋭意執筆中である。

研究成果の概要（英文）：In this project, I conducted an analysis of definiteness and indefiniteness in Standard Arabic from the perspective of traditional Arabic grammar. Definite noun phrases include not only those marked with the definite article "al-", but also personal pronouns, relative pronouns, and others. This study took these categories into account as well. Specifically, I examined "Pronouns of Matter," which are often considered to lack specific referents, and demonstrated that they do indeed have referents. Furthermore, in the history of Arabic grammar, it has often been the case that proper nouns indicating a species were treated as indefinite. I pointed out that this confusion arises from a mix-up between generic reference and non-specific reference. We also clarified how this relates to the concepts of "specific" and "generic," which are closely linked to definiteness.

研究分野：アラビア語学

キーワード：正則アラビア語　アラビア語文法学　古典アラビア語　限定　人称代名詞　総称指示

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

アラビア語の限定・非限定は、本プロジェクトの研究代表者の学生時代からの研究テーマである。修士論文では正則アラビア語を、博士論文ではアラビア語諸方言も含めて研究をおこなった。
その後も研究を継続し、日本語や英語で、口頭発表や論文発表を行なっている。

また、アラビア語の限定・非限定に関する国内の研究はごくわずかであり（例えば、プロジェクト開始当時に CiNii で「限定」「アラビア語」のキーワードで検索しても、8 件の論文しかヒットしなかった）、限定・非限定の研究は、英語など欧米の言語に偏っている。こうした状況下で、日本語ともヨーロッパ言語とも系統や使用地域の異なるアラビア語のデータを提供することは、言語学一般の発展に寄与するものと考えた。

本プロジェクトは、こうした限定・非限定の問題を、アラビア語の古典文法学の視点からとらえることを主眼とした。

２．研究の目的

本プロジェクトでは、そのアラビア語の限定・非限定の問題を取り上げた。定冠詞・不定冠詞のような、限定・非限定を示す標識を持たない日本語の話者にとって、限定・非限定は、アラビア語習得における困難点のひとつでもある。これを明らかにすることは、日本語母語話者のアラビア語学習にも有益であると考えられた。

その際、上述のとおり、アラビア語の古典文法学の視点を土台に据えた。アラビア語の古典文法学が決して古びた遺物ではなく、現代言語学にも寄与する財産であることを示すことは、本プロジェクトの大きな目的のひとつであった。

そして、アラビア語の限定・非限定という個別言語の具体的な記述を、一般言語学の理論に即して検証することを意図した。本プロジェクトでは、限定・非限定について、古典アラビア語文法家の記述の通時的変化や、限定名詞句を巡る論争をまとめた後、限定・非限定と関連の深い、情報構造に関する言語理論へ応用を試みるべく研究を開始した。

３．研究の方法

限定とは、定冠詞つきの名詞句に留まらない広い概念である。具体的には、人称代名詞、固有名詞（個別の固有名詞のほか、種を示す固有名詞というものも存在する）、指示詞、関係代名詞が含まれる。これをまず、古典アラビア語文法学の視点から広く解明すべく、人称代名詞や関係代名詞に関する分析も行なった。

さらに、後述のとおり、種を示す固有名詞に関しては、名詞句の指示の問題とも深くかかわり、文法学史におけるこの混乱を解明することも重要な手順であった。

なお、本プロジェクトにおいては、国際会議参加などをとおして、海外の研究者との連携をとってきた。
初年度は、モロッコのラバトで開催される世界アフリカ言語学会議と、ケンブリッジで開催される the Foundations of Arabic Linguistics の第 5 回会議に出席し、研究発表をおこなった。特に、the Foundations of Arabic Linguistics の会議は、古典アラビア語文法学に関する継続的な国際会議であり、やはり本研究の土台ともいうべき会議である。研究代表者はここで、人称代名詞とその指示や機能に関する口頭発表を行なった。これを英語論文にまとめたものを会議録に投稿したところ、採用され刊行された。

続く第 6 回の the Foundations of Arabic Linguistics の会議においては、限定・非限定と関連の深い、特定・一般という概念をとりあげて論じ、アラビア語文法学における名詞句の指示に関する混乱を指摘するなどした。

４．研究成果

本プロジェクトにおいては、特に正則アラビア語の限定・非限定について、アラビ語文法学の立場から分析を行なった。限定名詞句には、限定辞 al-で限定されたもののほか、人称代名詞や関係代名詞などが含まれ、本プロジェクトでもそれらの範疇を含めて考察した。具体的には、例えば「仮主語」のように捉えられ、指示対象のないとみなされがちな Pronouns of Matter について、指示対象を持つことを論証した。加えて、この人称代名詞の文脈上における機能についても一定の見解を述べた。

関係代名詞についても、ほぼ同時代の文法家であるイブン・ヒシャームとイブン・アキールの記述を比較検討し、その相違や視点の違いを論じた。

また、文法学史において、種を示す固有名詞がしばしば非限定と扱われていた件に関して、総称指示と不特定指示が混同されていることを指摘し、その原因として、限定と関連の深い「特定」「一般」の概念との関連を明らかにした。これに関しては、第 6 回の the Foundations of Arabic Linguistics の会議において口頭発表を行ない、これを英語論文にまとめ、会議録に投稿した。目下、査読結果を待っているところである。

このように限定・非限定という、日本語母語話者にとっての習得困難項目に関して、主に名詞句の指示の問題からその用法を明らかにすることができた。

また、文法学研究をとおして、文法教育の重要性を再認識し、アラビア語の文法教育についてまとめ、口頭発表をおこなうこともできた。このような視点を、日々のアラビア語教育に活かしていく所存である。さらには、本プロジェクトの成果も踏まえて、入門書を執筆中である。

ただ残念なのは、アラビア語文法学専門の研究会議 the Foundations of Arab Linguistics（通称 FAL）の第 6 回会議を 2020 年に東京で開催する予定であったにもかかわらず、新型コロナ・ウイルス蔓延の影響で、プロジェクトの期間内に開催することが叶わなかったことである。かわりに、2022 年にローマで会議開催となり、それに参加し口頭発表を行なうことはできたが、この点は心残りである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Haruko Sakaedani	４．巻 V
２．論文標題 Chapter 10 On Interpretation of the Pronoun huwa in 112/1 of the Qur'an: Tafsir and Grammar	５．発行年 2022年
３．雑誌名 The Foundations of Arab Linguistics V（Brill社の書籍）	６．最初と最後の頁 223-243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/9789004515895_012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 榮谷温子
２．発表標題 アラビア語文法学における「種(jins)」の概念と「一般」の用語の関連
３．学会等名 日本中東学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 榮谷温子
２．発表標題 アラビア語の関係代名詞とは何か―イブン・アキールとイブン・ヒシャームの記述の比較を中心に―
３．学会等名 日本オリエント学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Haruko Sakaedani
２．発表標題 ‘Generalization’ in Arabic Grammar and its Relation to ‘Species’
３．学会等名 Foundations of Arabic Linguistics, 6th Edition（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 榮谷温子
２．発表標題 アラビア語文法における一般化と限定や種との関係
３．学会等名 日本オリエント学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 榮谷温子
２．発表標題 アラビア語エジプト方言の疑問詞―日本語との対照分析―
３．学会等名 日本中東学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 榮谷温子
２．発表標題 アラビア語の名詞文の主語の限定性と特定性
３．学会等名 日本オリエント学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 榮谷温子
２．発表標題 古典アラビア語文法における「主語」
３．学会等名 日本オリエント学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Haruko SAKAEDANI
２．発表標題 Contrastive Analysis of bgha in Moroccan Arabic and 'aaz/'aHabb in Egyptian Arabic
３．学会等名 The 9th Word Congress of African Linguistics（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Haruko SAKAEDANI
２．発表標題 On interpretation of the pronoun huwa in 112:1 of the Qur’aan: Tafsiir and Grammar
３．学会等名 The Foundations of Arabic Linguistics V（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 榮谷温子
２．発表標題 クルアーン18章38節と34章27節の「事柄の代名詞」について
３．学会等名 日本オリエント学会第60回年次大会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関